

いま わたし 今、私たちにできること

ぼう さい 防災 について考えよう！

7年前の3月11日、東日本大震災が起きました。この震災は、私たちが住む塩竈市にどんな被害をもたらしたのでしょうか。1月15日から21日は「防災とボランティア週間」です。皆さんも改めて防災について考えてみましょう。

あの日何が起きたの？ 塩竈市津波防災センターに行ってみよう！

東日本大震災 あの日から7日間の記録

塩竈市津波防災センターは、津波災害時の一時避難場所や市営汽船欠航時の待機場所、震災の記録を未来に伝える場所として、今年7月に開館しました。

館内には、東日本大震災から7日間の記録を、1日ごとに分けて展示しています。天気やライフライン、避難所での食事のほか、体験談も展示され、どんな状況で、そのとき何が必要だったのかを学ぶことができます。展示室にある「知識の種」では、大きな画面にCGで当時の天気や街の状況が映し出されます。

職員による説明も行っていますので、分からないことがあったら聞いてみてください。

例えば、こんなことが分かるよ

- 食事は...**  小さいおにぎり1個など (避難所の一例)
- 電気は...**  市内全域で停電
- 電話は...**  電話回線が繋がりにくい状況に

災害は、地震や津波だけではない

豪雨や台風、土砂崩れなど、地震や津波のほか、いつ、どこで、どのような災害が起こるか分かりません。特に、塩竈市はがけが多く、土砂災害の危険性のある場所などが多数存在します。

展示室にあるタブレット端末では「防災ガイドブック」を見ることができます。皆さんが住んでいる地域のがけや斜面、土砂災害からの避難のポイントなどを確認してみましょう。



塩竈市津波防災センター
 住所：港町1丁目4番1号 (マリゲート塩釜東隣)
 開館時間：9時～17時
 休館日：毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌平日)、年末年始
 入館料：無料

塩竈市津波防災センター ☎794-7232



▲東日本大震災 あの日から7日間の記録



▲CGで当時の状況が分かる「知識の種」



▲職員による説明を受けたり、タブレット端末で防災に関する資料を見たりできます

災害は、いつ・どこで・何が起きるか分からない！

授業中や登下校中以外に大きな地震がきたらどうしますか。西ふ頭でつりをしているときに、地震がきたことを想定してみましょう。

つりをしているときに地震がきた！慌てずに逃げよう！

皆さんは子どもほっとスペース「自然体験 遊びにおいで」(牛生町子ども会主催)に参加して、西ふ頭でハゼつりをしています。そこに大きな地震がきて、津波警報がでたので、急いで津波防災センターに逃げます。



停電したら、自動ドアが開かない！

地震で停電してしまうと、自動ドアは開きません。津波防災センターの入口の反対側には、非常用の入口があります。事前に、非常用の入口を知っていれば、いざというときに慌てずに済みます。

すぐには家に帰れない…ごはんはどうする？

無事に避難したけれど、外は危険な状況で帰れません。非常食をみんなで分けて食べます。例えば、お菓子の「じゃがりこ」は、お湯を注ぐと、マッシュポテトになります。お湯を注ぐときは、やけどをしないように注意しましょう。



難しく考えず、楽しみながらやってみよう！

遊びながら防災を考える「防災ハゼ釣り」を企画した村上博之さんは「難しく考えるのではなく、普段遊んでいるときに『もし、ここで地震がおきたらどうするか？』と考えることが大切です」と教えてくれました。

◀実際に参加した皆さんからは「またやりたい!」との声が聞こえてきました

震災から生まれた縁を新たな復興の力に

塩竈市の復興を進めるために、全国の自治体から職員の派遣協力をいただきました。その自治体の一つ、岡山県倉敷市では、今年7月、100年に一度と言われる豪雨がおきました。たくさんの川の堤防が壊れてしまい、深刻な浸水被害に襲われました。

塩竈市では、その直後から避難所運営のために職員を派遣したほか、10月1日から半年間、公共施設の復旧工事を行うため職員を派遣しています。



岡山県倉敷市
倉敷市は、瀬戸内海に面する人口約48万人の町です。本州と四国を結ぶ瀬戸大橋や、温暖な気候を利用して栽培されたマスカットなどが有名です。

お世話になった倉敷市に恩返しを



建設部定住促進課 技師 佐々木優さん

私が、働き始めたときに仕事を教えてくれたのが、倉敷市から派遣された職員の方でした。私が倉敷市へ向かうと決まったときは「あのときお世話になった恩返しをしたい」という気持ちでいっぱいでした。

倉敷市は、予想していたよりも浸水被害を受けていました。遠目では水がひき、道路もきれいですが、近くで見ると、建物の中は空で、再開できない店もありました。見た目だけでは分かりづらいですが、まだ元には戻っていません。

小中学生の皆さんにとって、ほかの地域の災害は、テレビの中のことかと思ってしまうかもしれません。しかし、それは塩竈市にも起こりうることで、共通する部分もあると思います。「こんなことが起きたら、ここが危ないかもしれない」と考えてみてください。そして、危ないなと思ったところは大人に話してみてください。

私は、小中学校の校舎を直すための調査を行っています。とても大切な調査なので気を引き締めて頑張ります。